２１世紀の日本のかたち（３７）

のぞましい人間居住
（Desirable Human Settlements：Futures of Relevance）

―世界居住学会インド（ムンバイ）集会 2010 報告―
（その２）

戸沼幸市
＜（財）日本開発構想研究所 理事長＞

３．巨大人口国インドの行方

16億人の人口分布

国連の世界人口予想では、2050年、インドの人口は16億5,800万人（2001年10億2,874万人）になるとしています。

アジアのもう一つの巨大人口国、中国は「一人っ子政策」が効いて人口増に急ブレーキがかかり、2030年頃、14億人台をピークに急速に人口減に転ずるとみられており、この時期、インドは中国を抜いて世界一の巨大人口国になることになります。（図１）

インドは既に強烈な人口大国であり、これが15億人、16億人になるとは、インドはどの様な人間居住を実現することになるのでしょうか。

2050年16.58億人のインドにおける人口分布を、仮に2001年のインドの州ごとの人口がそのまま約1.6倍（10.29億人：16.58億人）になったとして計算してみました。（表１）

まず、ガンジス川流域に地球居住史上最大規模の巨帯人口集積が現れます。首都デリーのあるハリヤーナー州（0.34億人、4.4万㎢）、ウッタル・プラデーシュ州（2.68億人、24.1万㎢）、ビハール州（1.34億人、9.4万㎢）、西ベンガル州（1.29億人、8.9万㎢）、計5.65億人にもなります。そしてその隣に高密度人口大国バングラデシュ2050年2.54億人（2000年1.39億人）があり、合計すると8.19億人になります。

これに対して、インド文明の発祥の地であるインダス川は、現在、パキスタン（1995年1.30億人、2050年2.92億人）側にありますが、インダス流域のインド側、ラージャスターン州（0.91億人、34.2万㎢）、グジャラート州（0.82億人、19.6万㎢）、計1.73億人になります。そしてその東に隣接するマディア・プラデーシュ州（0.96億、30.8万㎢）があります。

網状の河川があり、気候的に居住条件の良いデカン高原の諸州、マハーラーシュトラ州（1.56億人、30.8万㎢）、アーンドラ・プラデーシュ州（1.23億人、27.5万㎢）、タミルナードゥ州（1.01億人、13.0万㎢）があり、計3.80億人です。

そしてこれに隣接するチャッティスガール州（0.34億人、13.5万㎢）、ジャールカーンド州（0.43億人、8.0万㎢）、オリッサ州（0.59億人、15.6万㎢）です。

インドにはネパール、ブータン、バングラデシュ、ミャンマーに挟まれた比較的小さな面積の一群があります。シッキム州（0.01億人、0.7万㎢）、アルナーチャル・プラデーシュ州（0.02億人、8.4万㎢）、アッサム州（0.43億人、7.8万㎢）、メガラヤ州（0.04億人、2.2万㎢）、トリブラ州（0.05億人、1.0万㎢）、ナガランド州（0.03億人、1.7万㎢）、マニプル州（0.04億人、2.2万㎢）、ミゾ

ラム州（0.01億人、2.1万㎢）です。計0.63億人とインドでは比較的人口の少ない地域ですが、それでも優に主要ヨーロッパ一国の人口サイズです。

他は西海岸にも二つの小さな州、ゴア州（0.02億人、0.4万㎢）、ケーララ州（0.51億人、3.9万㎢）があります。

パキスタン、ネパール、中国と国境を接しているジャンムー・カシミール州（0.16億人、22.2万㎢）、ヒマーチャル・プラデーシュ州（0.10億人、5.6万㎢）、ウッタラーカンド州（0.14億人、5.3万㎢）の北の山地系は計0.40億人です。（図２）

インドは多民族多文化の混然とした人間居住を実現維持しており、州ごとに様ざまな顔を持っております。それにしても16億を越すインドの人口の集積は想像を絶するものがあります。特にガンジス川流域46.8万㎢、5.65億人の居住とはどの様なものになるのでしょうか。

地域における人間居住は、第一の環境としての自然の中に水利と結びついた可住地を見いだし、これを活用して地域ごとの人口増に対応してきました。

歴史的にはまず、食糧生産のため、広く土地に結びついた農村をつくり、分散・粗住型の居住様式を実現しました。インドでは現在、人口の７割、７億人余が農村人口といわれています。これに対して、都市は集住・密住型の居住形式といえます。

都市問題

都市は市（いち）（場）と都（みやこ）（地域の統治拠点である）が始まりですが、インドには歴史的に独特な現れ方があり、今もその遺産が多く残っております。これが産業革命以後の近現代になり、工業、産業、経済などの拠点として、大都市、巨大都市が出現し、地域の人口増を吸収してきました。インドは現在３億人余が都市居住ですが、現在急速な都市化、大都市集中が起こっています。

2050年には、都市人口と農村人口は１：１と見積もられています。全人口16億5,800万人の半数８億2,900万人がそれぞれ農村と都市に住むことになります。これを都市側からみれば、単純計算として１億人都市が８か所、あるいは1,000万人都市が80か所、あるいは100万都市で800か所必要になります。これら大小様ざまな複合体も考えられます。

首都デリーを含むガンジス川流域圏３州は既に３億人近い人口集積地であり、2050年では4.3億人になるとすれば強烈な巨帯都市のイメージが浮かびます。

西ベンガル州の1.29億人はコルカタ（カルカッタ）１億人都市圏のイメージでしょう。

アーンドラ・プラデーシュ州（1.23億人）とタミルナードゥ州（1.01億人）を抱えたチェンナイ（マドラス）も数千万都市圏に、そしてインド第一の商都ムンバイ（ボンベイ）も数千万の巨大都市圏をつくり出すことになりましょう。急速な都市化、巨大都市化は様ざまな問題に直面すると思われますが、スラム、スラム的居住をどう許容するかは大問題に違いありません。

インドの都市化において、巨大都市化とは別に、数十万、百万人単位の都市が多数、地方、地域に生まれ、これが安定した状況でネットワーク状の都市になるかは興味深い点です。

農村問題

農村側にも大きな問題が横たわっているように思われます。伝統的な農業と農村社会の下に築かれたインドの村落型の人間居住のやり方で、現在の農村人口を上回る８億人が存立することができるのかの問題です。伝統的カースト制、裾の広いピラミッド型を基礎にした無数の村落居住の網に

よってインドは巨大人口を支えてきましたが、これまでの農業生産の仕方、土地制度では、８億人を支えるのは甚だ難しいことでしょう。農村における土地の細分化のシステム（親は子に平等分配する）は今も生きており、土地制度も問題に突き当たっています。

今度のインド旅行で、フランスの建築・都市計画家、ル・コルビジェのグループの設計した、パンジャーブ州の州都チャンディガールを訪ねましたが、コルビジェの設計した裁判所は土地問題の裁判でひどく混雑しておりました。

宗教

インドの巨大人口問題に関連して、インドには宗教の問題もあるように感じます。インドは現在、80％以上がヒンズー教であり、モスレム教10％余、他に仏教、キリスト教などと報告されています。

多産を善となすヒンズー教は、現在もインド社会を支えるベースに違いありません。日本や欧米などが手放した「大家族」が生きているのです。そしてヒンズー教には死の許容の仕方、独自の生死観があると見受けられます。

静止人口

インドの人口がどこで静止人口になるかは注目すべきところです。社会主義国中国は「一人っ子政策」で急ブレーキをかけ、14億人で静止すると見積もられていますが、市場経済の自由主義国インドでは子供の数は（現在、一家族の平均子供数は５人）、両親の自由選択です。

先進自由主義国では少子・小家族を選択して人口増は止まり、皮肉なことに少子化が大きな問題になっています。インドでも都市に居住する中流階層が多くなり、子供の数は減り始めております。問題は７億人を超す農村部において、これがどの様に影響するかです。ここにはまた教育の問題が深く関わっているように思われます。

静止人口については、思考実験的にいえばパニックによる場合もあります。大災害による大量死、地球温暖化によるヒマラヤの氷雪の溶解による河川氾濫（温度１℃上がるとムンバイの多くが水没するといわれている）、核戦争による大量死（インドもパキスタンも核保有国）、あるいは民族の大移動（先進人口減少国、ＥＵ、日本などへの移動、移住）、これについては2050年のグローバル化した世界において相当に進むのではないかと考えられます。いずれにしろインドといえども、16億人は環境として許容しうる最大のサイズと考えるのが妥当でしょう。

現在、インドには国土全体の空間のあり方を示す計画はありませんが、1990年代の経済開放で成長軌道を確定し、2010年ＧＤＰ8.1％、１人3,100ドルの水準に達し、国内消費を生み出し、中間層を拡大した実績を示しております。

巨大人口国において人口の１割、１億人が変化すればその効果は大きいのです。１億とは日本全部の人口です。経済発展によって１億、２億人が中流化すれば、その効果は莫大で、失速気味の先進国には魅力的市場に違いありません。

現在、インドではマハマード・シン首相の下で、第一次５ヶ年計画（2007ー2012）が進行中です。経済、産業、環境、エネルギー、教育、社会、都市、交通などを項目に挙げており、「包括的な成長：９％のＧＤＰの成長の実現と社会的弱者の生活質向上」を謳っています。

国土のインフラ、高速道路計画として、デリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタを結ぶ黄金の四角形プロジェクト（GOLDEN QUADRILATERAL：5,846km）も進行中です。（図３）

デリー首都圏計画（2021年目標）も打ち出され

ております。首都圏の面積33,578㎢、人口は3,700万人から6,400万人。「環境・歴史的遺産の保全、広域的な観点からの計画と開発、持続可能かつハイレベルな生活水準、生活の質の向上、貧困層の立場に立って包括的アプローチ」などを掲げ、世界都市に育てようとしています。いずれにしろ近代国家として貧困問題に直面しています。

私にとってデリーも34年ぶりでした。インディラ・ガンジー国際空港は堂々とした構えで、市内とは高速道路でつながりました。首都、大デリーはオールドデリー、デリー、ニューデリーと重なる歴史の断面がそのまま都市構造に現れております。

首都機能―広い中心の街路に配された大統領官邸、官庁建築群、各大使館が公園群に包まれておりましたが、日本大使館も日の丸を掲げておりました。全体として、イギリス流の都市計画が下敷きとなっているといった感じです。

首都デリーは黄金の四角形の北の拠点に位置取りをし、ここから21世紀インドの新しい国づくりを展開する司令塔にちがいありません。

４．インド鏡からみる日本

″生″へのベクトルの強烈なインドから日本に帰国してみると、ほっと一息、安らぎを覚えます。空港はともかく、ホテルに入る際の毎回のボディーチェックも無く、カースト的タテ社会に大急ぎでかぶさるヨコ型のネットワークの結節部分、ジョイントの未熟さから来るトラブルにも出会わず、東京にはスラムもなく、よほど整然とした街に感じます。ともかく日本は安定しているのです。

と同時にインドとは反対に″生″に対するベクトルが弱まってきている気配も感じます。

日本の人口は劇的な人口減少期に入り、2050年には１億人を割ると予測されております。インドには１億人を超える州がいくつもあるのです。

日本では少子高齢化で若年層が貴重な労働力でもあるにもかかわらず、高校卒、大学卒の就職難が報じられております。あるいは生涯未婚人口が増加し、大家族はもとより、核家族までが解体され、私の言い方では″素粒子家族″が大量に生まれております。つながりの希薄な無縁社会が広がっている様々な事件が報じられています。

この様な最近の日本社会の閉塞的状況は、これまで内向きの日本のやり方が一つの壁に突き当たったことでもあります。

その一方、この閉塞状況を人間居住のグローバル化、アジア化の波に同調させ、打開する動きも起こりつつあることを身辺にも感じます。

今年、2011年正月の年賀状がアジアからのものが去年にも増して増えておりました。かつての私の在籍した大学の留学生もいれば、インド、インドネシア、中国、韓国、欧米の人々と結婚した日本人卒業生たちからのものもあります。また、いくつもの年賀状からは、今や、日本人が永住的に、短期的に、労働の場をアジア各地に広げている様子がうかがわれます。

日本人の生活者レベルへもグローバル化、アジア化の波が押し寄せつつあると感じます。大学も企業もグローバル化に備える体制を整えつつあります。

迷走気味ではありますが、日本国政府もようやく平成の″開国″を宣言し、手はじめにＴＰＰ（環太平洋パートナーシップ）への参加を決めようとしています。日本の国土形成計画（2010年7月：人口１億2577万人、面積 37.8万㎢）も、国土を大地域（いくつかの県のまとまり）の集合として捉え、シームレスアジアの中に生きるべき姿を画いております。また、インドも加わる東アジア共同体構想もあり、ようやく21世紀、日本がアジア

中に生きる姿が浮かび上がってきます。

インドを鏡として見る日本は、多面的な姿かたちを映し出します。インドで生まれた仏教が東方の島国日本に照射され、これが日本社会の基底にあります。

家族、大家族が生きているインド、これを手放して人口減少期に入った日本、この国の人間居住をどのように選択するのかとインド鏡は問いかけています。

2050年、日本は人口の1割、1000万人をインド、アジアから受け入れているのでしょうか？

【注】

インドの将来推計人口及び州ごとの人口分布について

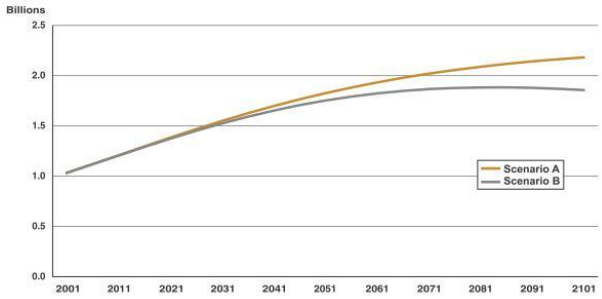
「The Future Population of India (Population Foundation of India、Population Reference Bureau) August 2007」による予測があります。

参考表－１　インドの将来人口予測（２ケース）

	2041年	2051年	2101年
Scenario A	16.95	18.25	21.81
Scenario B	16.50	17.51	18.53

(単位：億人)

参考図－１　インドの将来人口予測



人口増も急速で2041年には16億人台に達し、シナリオＡでは、今世紀末には20億人を超えます。シナリオＢにおいてようやく21世紀末に静止人口（出生率 2.1）を期待しています。

州ごとの人口分布については、州ごとの出生率（ケラーラ州（1.7）～ビハール州（4.3））から割出して予測しております。

これを16億人台になる時点（2050年）の本稿で想定した州ごとの人口分布と比較してみると、デカン高原一帯はやや低めに現れますが、ガンジス川流域の巨大人口地帯により強烈な人口集積（ハリヤーナ州 0.39億人、ウツタルブランテイシュ州 3.26億人、ビハール州 1.68億人、西ベンガル州 1.15億人、計 6.48億人）が現れます。

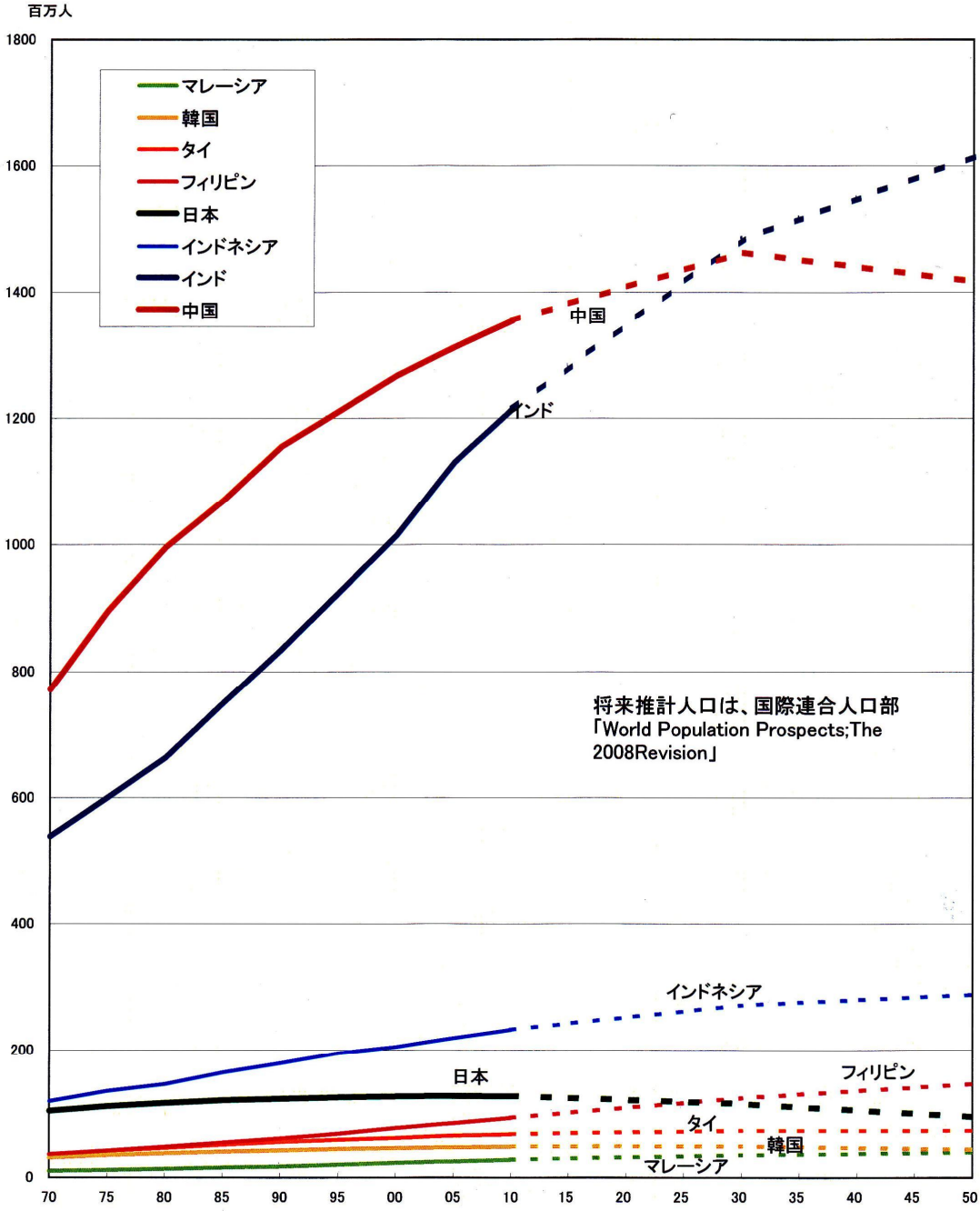
【参考文献】

「インドの国土政策」阿部和彦（(財) 日本開発構想研究所 研究本部長）2011年1月『人と国土』発行：(財) 国土計画協会

「The Future Population of India」(Population Foundation of India、Population Reference Bureau) August 2007

(2011.01.15)

図－１　アジア諸国の人口動向と将来推計人口



（財団法人日本開発構想研究所　作成）

表－1　インドの州別面積及び人口、人口密度
（2001年の統計数値と2050年の予測）

州、連邦直轄地域・首都圏		面積（万㎢）	人口（億人）			人口密度（人／㎢）	
			2001年	2050年 *1	2041年 *2	2001年	2050年 *1
州	アーンドラ・プラデーシュ州	27.5	0.76	1.23	1.06	277	446
	アッサム州	7.8	0.27	0.43	0.43	340	548
	アルナーチャル・プラデーシュ州	8.4	0.01	0.02	0.02	13	21
	ウッタラーカンド州	5.3	0.08	0.14	0.14	159	256
	ウッタル・プラデーシュ州	24.1	1.66	2.68	3.27	690	1,112
	オリッサ州	15.6	0.37	0.59	0.51	236	380
	カルナータカ州	19.2	0.53	0.85	0.76	276	445
	グジャラート州	19.6	0.51	0.82	0.79	258	416
	ケーララ州	3.9	0.32	0.51	0.39	819	1,320
	ゴア州	0.4	0.01	0.02	0.02	364	587
	シッキム州	0.7	0.01	0.01	0.01	76	122
	ジャールカーンド州	8.0	0.27	0.43	0.50	338	545
	ジャンムー・カシミール州	22.2	0.10	0.16	0.15	100	161
	タミルナードゥ州	13.0	0.62	1.01	0.74	480	774
	チャッティスガール州	13.5	0.21	0.34	0.34	154	248
	トリプラ州	1.0	0.03	0.05	0.05	305	492
	ナガランド州	1.7	0.02	0.03	0.03	120	193
	西ベンガル州	8.9	0.80	1.29	1.15	903	1,455
	ハリヤーナー州	4.4	0.21	0.34	0.39	478	770
	パンジャーブ州	5.0	0.24	0.39	0.35	484	780
	ビハール州	9.4	0.83	1.34	1.68	881	1,420
	ヒマーチャル・プラデーシュ州	5.6	0.06	0.10	0.09	109	176
	マディア・プラデーシュ州	30.8	0.60	0.97	1.06	196	316
	マニプル州	2.2	0.02	0.04	0.03	103	166
	マハーラーシュトラ州	30.8	0.97	1.56	1.52	315	508
	ミゾラム州	2.1	0.01	0.01	0.01	42	68
	メガラヤ州	2.2	0.02	0.04	0.04	103	166
	ラージャスターン州	34.2	0.57	0.91	1.12	165	266
連邦直轄地域・首都圏	アンダマン・ニコバル諸島	0.80	0.004	0.006	0.005	43	69
	ダードラー及びナガル・ハヴェーリー	0.05	0.002	0.004	0.007	449	724
	ダマン・ディーウ	0.01	0.002	0.003	0.004	1,413	2,277
	チャンディーガル	0.01	0.009	0.015	0.017	7,900	12,732
	デリー首都圏	0.15	0.139	0.223	0.258	9,340	15,053
	プドゥッチェーリ	0.05	0.010	0.016	0.016	2,030	3,272
	ラクシャディープ	0.00	0.001	0.001	0.001	1,895	3,054
全インド計		328.7	10.29	16.58	16.95	313	504

データ出典：インド統計局、2001国勢調査

＊１：2050年の各州の人口及び人口密度は、2050年の総人口予測と2001年の人口データの比をもとに、各州の人口を約1.61倍した値。

＊２：「The Future Population of India (Population Foundation of India、Population Reference Bureau) August 2007」による予測値

＊３：連邦直轄地域及び首都圏については、面積や人口の値が相対的に小さいので、面積は小数点以下2桁まで、人口は同3桁まで表記した。

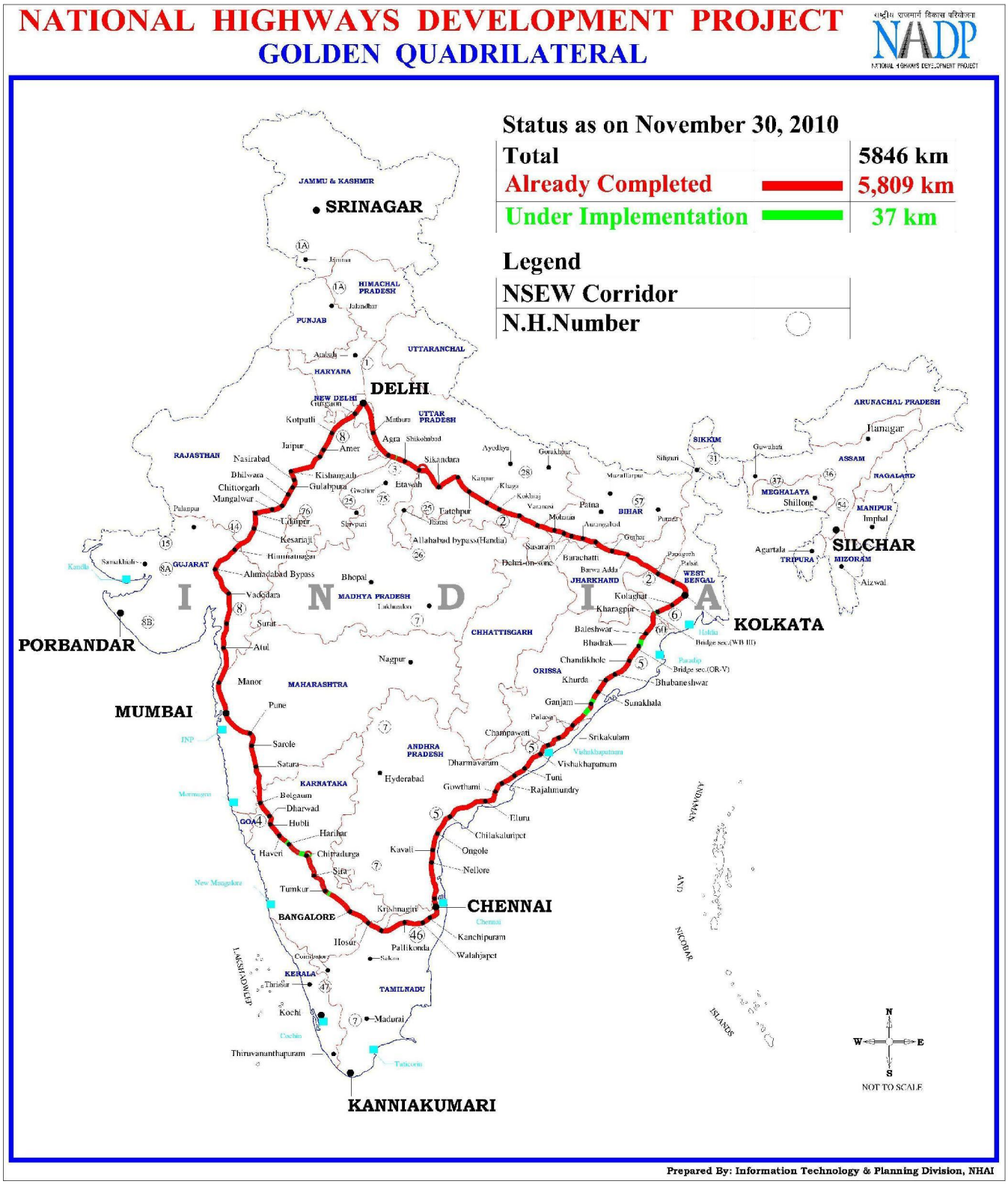
（財団法人日本開発構想研究所　作成）

図－２　インドの州と州別予測人口（2050年）、河川

数値は州別の2050年予測人口（単位：億人）

（財団法人日本開発構想研究所　作成）

図－３　デリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタを結ぶ黄金の四角形プロジェクト



資料：National Highways Authority of India